CO·OP
京都の生協

2017/April/No.92
京都府生活協同組合連合会

「ことばの壁」を越えて、被爆者の声を世界に届ける
――“ノーモア・ヒバクシャ”を国際的な世論とするために――

TalkTalk トークとーく

◎被爆者証言の世界化ネットワーク（NET−GTAS）代表
京都外国語大学 国際言語平和研究所 客員研究員 長谷邦彦さん
◎京都府生活協同組合連合会 会長理事 上掛利博

TalkTalk
トークとーく

対談

「ことばの壁」を越えて、被爆者の声を世界に届ける

――〝ノーモア・ヒバクシャ〟を国際的な世論とするために――

被爆者証言の世界化ネットワーク（NETーGTAS）代表
京都外国語大学 国際言語平和研究所 客員研究員
長谷邦彦さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事
（京都府立大学公共政策学部教授）
上掛利博

核のない世界を求める運動は、「ことばの壁」を乗り越えるという点で十分に対応してきたのだろうか――。長谷邦彦さんは、こうした問いかけを胸に、被爆者の証言を多言語に翻訳する活動を開始しました。世界各地の人びとに、それぞれの母語で被爆者の声を届け、新しい国際世論をつくろうとする試みは、同時に他者理解を深める活動でもあり、そのなかで、ことばや国の違いを超えて真摯に対話しようとする若者が育ちつつあります。

被爆者の願いを世界の人びとと共有するために

上掛　わたしは昨夏、『いしぶみ～広島二中一年生全滅の記録』（広島テレビ放送、ポプラ社刊）をもとに制作された映画「いしぶみ」（是枝裕和監督）を観ましたが、強く印象に残っています。広島上空で原爆が炸裂した1945年8月6日の朝、真下で建物疎開の作業にあたろうとしていた広島二中の生徒たちが命を奪われたなか、偶然にも生き残った方たちがおられて、そのことに自責の念を抱いて、とても苦しみながら戦後を生きてこられた。この映画で、広島出身の綾瀬はるかさんが語り部となって朗読するのを聞きながら、深く考えさせられました。

そうした被爆者の方がたの言葉を、長谷さんたちはさまざまな言語に翻訳して、世界に発信されています。このことの持つ重要さに、わたしは気がつきませんでした。

長谷　おっしゃるとおり、被爆者の方がたは、自分だけが生き残ってしまったことに苦しみ、葛藤を抱えながらも、「生き残ったかぎりは、無残にも殺されていったみんなの思いを後世に伝えなければいけない。自分以外のだれが、この役割を果たせるのか」という思いから、凄惨をきわめた日々の「記憶」を「記録」として残そうと努力されています。

しかし、それを日本語で

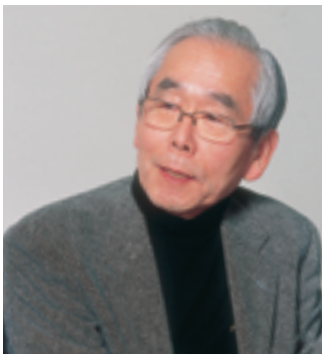
C／O／N／T／E／N／T／S

トークとーく対談
「ことばの壁」を越えて、被爆者の声を世界に届ける‥2

きょうと食の安心・安全フォーラム……7
平成28年度第3回食の安心・安全意見交換会……7
農林水産省・近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会……7
食育企画「『豆』博士になろう」親子でつくる・たべる・まなぶ……7
2017年京都府生協連 新春交歓会開催……8

TOPICS
●奨学金制度について考える学習会……10
●あわじ環境未来島構想を視察……10
●京都市ごみ減量推進会議「設立20周年記念式典・記念講演会」……10
●平成28年度地方消費者フォーラムinひょうご……10
●「日本生協連2020ビジョン・中期方針福祉分野（事業）報告」……11
●京都環境フェスティバル2016……11
●環境・エネルギー部会公開学習会……11
●京都労働者福祉協議会 創立60周年記念講演・祝賀会……11
●第4回近畿圏　府県生協連・ろうきん合同会議……11
●マスコミ関係者との懇談会……11

会員生協トップインタビュー VOL.4
京都府立医科大学・府立大学生活協同組合……12
京都府生協連　第22回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」……14
おもな行事のお知らせ……14



被爆者証言の世界化ネットワーク（NET-GTAS）代表・京都外国語大学 国際言語平和研究所 客員研究員
長谷邦彦さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事
（京都府立大学公共政策学部教授）
上掛利博

語っているだけでは、原爆放射線の非人道的な実相を、地球上の70億の人びとにあまねく伝えることはできません。「核のない世界」を実現するためには国際的な世論形成が必須であり、そのために、被爆者の証言ビデオにできるだけ多言語で字幕を付けて、世界中の人びとに母語で事実を知ってほしい。そう願って立ち上げたのが、「被爆者証言の世界化ネットワーク」（略称：NET-GTAS、呼称：ねっと・じーたす）という組織です。

「言語を通して世界の平和を」という建学の精神を有する大学で

上掛　いつから活動を始められたのですか。

長谷　いまから3年前の2014年1月です。その10年前の2004年から、わたしは「Pax Mundi per Linguas—言語を通して世界の平和を—」との建学の精神を持つ京都外国語大学（以下：京都外大）で教えるようになりまして、この建学の精神を具体化するために、「現代社会研究ゼミ」という授業で被爆者証言ビデオの制作に取り組みました。

そして、せっかく外国語大学なのだからこのビデオに多言語の字幕を付けてインターネットで公開しようということになり、学生たちは、京都市在住の被爆者で、生協でも活躍されている花垣ルミさんに取材をして、それを10分ほどの映像に編集し、英語・中国語・イタリア語の3言語の字幕を付けて、You Tubeにアップロードしました。

これが出発点となり、2012年に国際連合軍縮部から京都外大に、「国連として被爆者の声を多言語に翻訳して、軍縮教育の一環として世界に広める取組みを始めたい。ついては、アメリカ大陸在住の12人の被爆者の映像の字幕翻訳に協力してほしい」と依頼があったのです。大学は、「まさに建学の精神と合致する話だから」と快諾。結局、7言語の翻訳を京都外大で担当しました。

この翻訳作業については、ネイティブの先生も含めて、たいへん多くの人が苦労してかかわってくださって、その方がたから「この作業は1回きりでいいのか。自分たちで継続的に翻訳作業をおこなうボランティア団体を立ち上げよう」という声があがりました。そこで、わたし自身、この活動に専念したいと考え、2013年に大学を退職して準備作業に入り、翌14年にNET-GTASを設立することができたという次第です。

NET-GTASのブログ
http://www.kufs.ac.jp/blog/department/net-gtas

大学の支援があってこそ

上掛　長谷さんは、京都外国語大学の国際言語平和研究所、客員研究員という肩書もお持ちですが、この研究所とNET-GTASはどのような関係にあるのですか。

長谷　研究所は、NET-GTASをプロジェクトのひとつに位置づけて、研究費を出しながら育てていくというスタンスで、設立当初から見守ってくださっています。その予算があったからこそ、わたしたちも活動を開始できたわけで、研究所はNET-GTASの生みの親です。本当に感謝しています。

上掛　大学としても支援されているのですね。そうすると、メンバーは京都外大の方たち中心ですか。

長谷　いいえ、そもそも準備会の段階から横浜国立大学と筑波大学の教員が参加していましたし、いまも他大学で教えている人や翻訳家、NPO関係者、学生などがメンバーです。それに、大学教員は海外の学会に出たときなどに宣伝してくれますので、他の国の人からも「一緒にやりたい」という反応がけっこうあって、現在、アジアやヨーロッパ、アメリカ、オセアニアなども含めて約160人の会員がいます。

被爆者が語ることの意味
――加害の側面を覆い隠すことであってはならない

上掛　現在、翻訳はどれぐらいまで進んでいますか。

長谷　16人の被爆者の証言を、最多で10言語、少ない場合でも2言語に翻訳して、それぞれを字幕付きビデオにしてきました。これら合計76本のビデオは、インターネット上の広島・長崎両国立原爆死没者追悼平和祈念館の合同サイト「平和情報ネットワーク」(http://www.global-peace.go.jp)で視聴できます。

最初の年は、5人の被爆者のビデオを、英語・中国語・韓国朝鮮語・ドイツ語・フランス語の5言語に翻訳しましたが、その後メンバーが増えて、いまではイタリア語・ポルトガル語・スペイン語・スロベニア語・ロシア語など12言語での翻訳が進んでいます。

上掛　印象深い証言を教えてください。

長谷　天野文子さんという女性は、広島に原爆が投下された当時14歳。市郊外で勤労奉仕中でした。翌日、市中心部の自宅に向けて家族の安否を尋ねて歩き、入市被爆しました。兄は、大火傷を負って、寝たきりで敗戦を迎えるのですが、重体の兄に「戦争に負けた」とは言えず、「日本は勝ったよ」と言ってしまいました。それから間もなく、兄は「痛い」と、たったひとことつぶやいて息を引き取り、このことが天野さんの胸に残り続けます。

その後、彼女は歴史を学び、国が「戦争は国民を守るため、植民地を解放するため」と大うそをつき、旧日本軍がアジアの人びとにたいへんな苦痛を強いたことを知って、兄の「痛い」にアジアの人びとの「痛い」を重ね合わせながら、証言活動を始めていきます。兄にうそをついたことも含めて、贖罪(しょくざい)の旅を続けているのです。

天野さんは、マレーシアで「日本の平和憲法は、日本人だけのものでなく、わたしたちアジア人の犠牲の結果でもあるのだから大事にしてくれ」と言われたと語り、これにどう応えたらいいのだろうかと、逆に私たちに問いかけています。

つまり、「わたしたちは、自分の国が犯した誤りをアジアの人たちに率直に伝えなければならない。被爆者が語るということは、じつは加害者でもある日本が、『わたしたちは被害者なのだ』と言いつのって、加害者としての側面を覆い隠すことであってはならない」と言っているのです。

核廃絶にむけた若い世代の試み

上掛　ドイツのボン大学やオーストリアのウィーン大学も翻訳に参加したり、さらには合同授業という手法を使ったりして、世界の人びとが「ことばの壁」や国境を越えて、核被害の実相を共有していく試みも始まっているようですね。

長谷　NET-GTASの

活動は大学を拠点に始まりましたから、わたしたちは当初から「大学で証言翻訳の授業をやってほしい」という提起をしてきました。実際にいまは、現地の日本人の教員が、ご自分の授業で学生に教材として翻訳を指導され、それを監修した後、日本に送ってくださっています。

わたしたちは若い世代への垂直的な継承と、地球全体への水平的な継承という両面の課題を重視してきましたので、外国で学生の参加を得られていることは大きな喜びですし、そこから一歩進んで、合同授業で各国の学生を結ぶ取組みも始めたいと考えました。

なぜなら、若い世代に、他人事ではなく自分事として核の問題を受けとめてほしいからです。彼らは「自分たちはヒバクシャではない」と思っているかもしれませんが、核保有国による核実験が繰り返されてきたのですから、じつは地球全体がすでに被曝しています。ならば、核被害の実相を当事者として市民の声で表現し、新しい世論を形成していく作業が必要でしょう。

そこに直結するような教育をおこない、また、その教育を受けた学生たちが、日本で、世界各地で、立ち上がり、自分たちの学校を新しい発信の場としてつくり変えていく。そうした真にグローバルな視点と行動に結びつく平和教育を創造しなければいけないと思います。

ことばの壁や国境を越えていく若者たち

上掛　テレビ会議システムを使って、京都外大とボン大学で合同授業をされたそうですが、やってみていかがでしたか。

長谷　ドイツの学生が「ぼくたちが被爆者の証言をドイツ語に翻訳し、インターネットで公開していることをどう思うか」と問いかけると、日本の学生は「ぜひとも世界に理解してほしい話なので、とてもありがたいと思う」と答えた後、「ドイツでは、被爆の問題を話し合うことがあるのか」と質問しました。すると、ドイツの学生が「ナチスの戦争責任については小学校のころから何度も授業を受けてきたが、原爆の問題はヒロシマ・ナガサキという地名と何十万人という被爆者の数を教わっただけだ。今回、証言ビデオを見て、涙がとまらなかった。とても大きな問題だということに初めて気づいた」と話してくれたのです。

そこから議論は、それぞれの国の平和教育が国策に縛られていることを明らかにし、そういう状況では国同士の和解は困難だということが、だれにも理解できるような展開になりました。

この授業は、加害と被害の関係や戦争の原因についてもっと学ぶ必要があるという気づきを、両大学の学生に与えたのではないかと思います。

国際的な市民の声で、核兵器禁止条約の制定を

上掛　国連で核兵器禁止条約の制定をめざす会議や交渉がおこなわれますが、それに向けて被爆者の方たちが「ヒバクシャ国際署名」（※）を呼びかけておられます。核兵器の廃絶に向けて、非常に大事な取組みですね。

※ヒバクシャ国際署名（ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名）…「生きている間になんとしても核のない世界の実現を」の思いから平均年齢80歳を超えたヒロシマ・ナガサキの被爆者が始めた国際署名。核兵器禁止条約が議論されている国連総会に2020年まで毎年届けることにしている。

長谷　被爆者の多くは、「あのような狂気の兵器を、人類はいつまで持ち続け、増やすのか。自分たちが受けた苦しみや悲しみを、二度と他の人たちに味わわせたくない。わたしたちの生きている間に『核のない世界』をつくりたい」と切望しておられます。これに応える動きのひとつとして、2013年来、核兵器の非人道性をめぐる国際的な会議が重ねられ、ようやく国連の場で交渉会議がスタートすることになりました。

ただ、本当に残念なことに、唯一の戦争被爆国である日本はこの交渉開始に反対しました。ご存じのように、日本はアメリカの「核の傘」の下にありますし、「核を持てば、他国に対して強大な力を誇示でき、よそからの侵略を防げるだろう」と考えたり、「核抑止論」という名で、核兵器に依存した「平和」と称するものをつくりだそうと考える国も少なくありません。

こうした主張は、被爆者が

抱えた悲劇の記憶や願いが認識されていないことの裏返しです。このような主張が多勢を占めているかぎり、核兵器を廃絶すべきものとして考える根拠は生まれないのです。核に依存する世界から脱け出すには、被爆者の声を最大限に伝え、広げて、日本のみならず国際的なレベルで世論を変えていく必要があります。

そう考えますと、これまでの平和運動は、そうした国際世論づくりのための実務的な活動が足りなかったのではないでしょうか。「もう二度と、あの生き地獄を出現させないために、核兵器を廃絶しよう」という主張が、共感をもって広がっていくためには、当事者である被爆者の証言をもっともっと大事にしなければいけないだろうと思います。

被爆者の平均年齢は80歳を超えています。「生きている間に、なんとしても核のない世界の実現を」という願いに本気で応えようと思えば、国連での交渉会議も、まさに被爆された方の遺体がずらりと並んでいるところで議論するぐらいの覚悟が求められるでしょうし、いまは国際世論の力でそういう状況をつくりだせるかどうかの瀬戸際だと思います。

暴力のない世界づくりに向けて、真の対話を

上掛　協同組合は、その出発から「学ぶ」ということを重視してきた組織です。これから「ヒバクシャ国際署名」の運動を進めるうえでも、単に署名を集めるだけでなく、平和について多様な観点から学び考えることが大切だと思っています。

長谷　まさにそのとおりですね。世論が変わらなければ核兵器をなくすことはできませんので、市民が学び、市民の声として表現していく工夫をしながら、新しい世論を形成していく取組みが必要です。

上掛　協同組合に対して、どんなことを期待されますか。

長谷　わたしの家族は、ずっと生活協同組合とつながっていますし、わたし自身も新聞記者時代には京都支局に勤務したことがありまして、そのころは一組合員として利用もしました（笑）。

生協は、消費者としての市民とつながっていて、とても重要なネットワークだと思います。さまざまな矛盾を抱える現代資本主義社会のもとで、人びとの意識も変化していますので、生協組織は、その変化を受けとめ、踏ん張るべきところは踏ん張り、変えるべきところは変えていく。その意味では、まさに「実務」という表現にふさわしい努力をこれからも続けてほしいですね。

政治的な課題については、アレルギーもあるかもしれませんが、市民が協力し合って、自分と自分の家族の平安だけでなく、地域の平和や暴力のない世界をつくりあげるために、協同組合として新しい提案をしていただければと思います。

上掛　真の平和は暴力のない世界を築くことであり、そのためには「対話」ということを欠かすことはできないと考えます。NET-GTASの、世界に向けて被爆者の証言を広めていく取組みは、まさに対話の土台をつくるものであり、それがあって本当の平和構築につながるということがわかりました。ありがとうございました。

（写真撮影・有田知行）

プロフィール　長谷　邦彦（ながたに　くにひこ）

「被爆者証言の世界化ネットワーク（NET-GTAS）」代表。
京都外国語大学国際言語平和研究所客員研究員。

●略歴
1943年、東京都生まれ。
1967年、東京大学文学部社会学科卒業。
1968年、毎日新聞社入社。大阪社会部記者、広島支局記者、京都支局次長、大阪学芸部長、大阪メディア事業本部長、大阪制作局長など経て、2003年定年退職。
2004年、京都外国語大学教授（メディア論、平和学）。
2013年、同大学国際言語平和研究所客員研究員。現在に至る。
2014年、「被爆者証言の世界化ネットワーク（NET-GTAS）」設立、代表就任。

●主な著書
「原爆25年」（毎日新聞社・共著）、
「『毎日』の3世紀」（毎日新聞社・共著）、
「平和を創る発想術」（岩波書店・共著）
など。

きょうと食の安心・安全フォーラム

2月2日（木）、京の食文化ミュージアム　あじわい館で、「京都の食！おいしい出会い信頼との出会い」をテーマに開催。主催は、きょうと食の安心・安全フォーラム実行委員会（京都府、JA京都中央会、［一社］京都府食品産業協会、コンシューマーズ京都、京都鶏卵・鶏肉安全推進協議会、京都府生協連）。

10回目の開催となり、府民80人が参加しました。

（一社）京都府食品産業協会・山本隆英会長の開会あいさつにつづき、京都府農林水産部食の安心・安全推進課・一星暁美副課長が「京都府における食の安心・安全の取組み」について報告しました。

（一社）京都府食品産業協会・山本隆英会長

「きょうと信頼食品登録制度」登録事業者および京のブランド産品生産者による安心・安全の取組みの報告をうけ、調理講師による京のブランド産品および登録食品を用いた調理実演のあと、試食と意見交換がおこなわれました。

京都府生協連・川村幸子理事が閉会のあいさつをおこないました。

平成28年度第3回食の安心・安全意見交換会

2月7日（火）、京都府庁旧本館会議室で「京都府食品衛生監視指導計画」をテーマに、開催されました。

京都府農林水産部食の安心・安全推進課・奥野裕史理事が開会あいさつ。「平成28年度京都府食品衛生監視指導計画経過報告」および「平成29年度京都府食品衛生監視指導計画（案）」、「牛海綿状脳症（BSE）対策の見直し」について説明があり、意見交換しました。京都府健康福祉部生活衛生課・森田朗課長から、閉会のあいさつがありました。

新日本婦人の会京都府本部、NPO法人京都消費生活有資格者の会、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連から10人が参加しました。

農林水産省・近畿農政局と近畿地区生協府県連協議会との意見交換会

農林水産省近畿農政局・徳田正一局長

3月6日（月）、コープ御所南ビル4階会議室で開催されました。近畿農政局からは徳田正一局長はじめ11人の方が、生協からは近畿6府県の生協連・日本生協連関西地連の役職員21人が参加しました。開会にあたって、徳田正一・近畿農政局長、近畿地区生協府県連協議会を代表して上掛利博・京都府生協連会長理事があいさつをのべました。近畿農政局から以下の報告がありました。「食の安全・安心をめぐる国際情勢（TPP）について」辻山弥生・農林水産省消費・安全局国際基準室調査官、「米政策について（輸入米の現状を含む）」大川武士・生産部上席農政業務監理官、「加工食品の原料原産地表示制度に関する検討会のとりまとめ状況について」寺垣内穫・消費安全部表示・規格課長補佐、「食品トレーサビリティについて、他」前田安正・消費生活課長。

生協から、各府県ですすめられている特徴的な取組みについて報告があり、意見交換しました。

京都府生協連からは、京都生協・廣池孝之地産地消担当チーフから、生産者、行政や諸団体と連携してすすめている地産地消の取組みについて紹介がありました。

兵庫県生協連・野間誠専務理事が閉会のあいさつをおこないました。

食育企画「『豆』博士になろう」親子でつくる・たべる・まなぶ

修了証を渡す京都生協・川村幸子副理事長（京都府生協連理事）

3月18日（土）、食文化ミュージアムあじわい館で開催しました。2016年を国連は「国際マメ年」に定めています。京都府では丹波を中心に大納言小豆や黒大豆が栽培され、ブランド農作物に指定されています。多くの種類があり、身近な食べ物である『豆』について学び、親子でお菓子づくりに挑戦しました。

まちむらネットワーク（NPO法人日本都市農村交流ネットワーク協会）と生協（京都生協、京都府生協連）が主催しました。

親子で28人が参加しました。

2017年 京都府生協連
新春交歓会開催

京都府生協連・
畑忠男副会長理事

京都商工会議所中小企業経営
支援センター・稲垣繁博所長

京都府府民生活部・
西川定彦部長

京都府生協連・
上掛利博会長理事

1月7日（土）、コープ・イン・京都で京都府生協連2017年新春交歓会を開催しました。小野留美子常任理事が司会を担当、上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、高取淳専務理事が会員生協の役員を紹介しました。

来賓として、京都府府民生活部・西川定彦部長からごあいさつをいただきました。

今年も地元選出の国会議員のみなさまはじめ、府議会議員、市会議員の方がたが多数ご出席くださり、高取淳専務理事からご紹介をさせていただきました。

京都商工会議所中小企業経営支援センター・稲垣繁博所長による乾杯で、会食・懇談に入りました。

行政や議員のみなさんはじめ、117人の方にご出席いただきました。京都大学「叡風会」の学生のみなさんによる祝賀の演奏が、お正月らしさをいっそうひきたてました。

さいごに畑忠男副会長理事が閉会のあいさつをのべました。

京都府生協連・
小野留美子常任理事

会員生協役員の紹介

祝電・メッセージをいただいた方

（敬称略・順不同）

自由民主党	衆議院議員	安藤　ひろし
自由民主党	衆議院議員	田中ひでゆき
自由民主党	参議院議員	二之湯　智
公明党	衆議院議員	竹内　譲
民進党	衆議院議員	泉　ケンタ
民進党	衆議院議員	前原　誠司
民進党	衆議院議員	北神　圭朗
日本共産党	衆議院議員	こくた　恵二
日本共産党	参議院議員	井上　さとし
日本共産党	参議院議員	倉林　明子
民進党・府民クラブ京都府議会議員団	団長	北岡　千はる

ご出席いただいた京都府議会議員・京都市会議員

（敬称略・順不同）

公明党	京都府議会議員	諸岡　美津
日本共産党	京都市会議員	赤阪　仁
日本共産党	京都市会議員	くらた　共子
日本共産党	京都市会議員	西村　よしみ
日本共産党	京都市会議員	やまね　智史
公明党	京都市会議員	かわしま優子
公明党	京都市会議員	西山　信昌

ご出席いただいた国会議員のみなさん

（順不同）

民進党参議院議員・
福山哲郎さん

民進党衆議院議員・
泉ケンタさん

日本共産党参議院議員・
井上さとしさん

日本共産党衆議院議員・
こくた恵二さん

京都大学「叡風会」のみなさんによる祝賀の演奏

おめでとうございます

日本共産党参議院議員・
倉林明子さん

なごやかに歓談

今年もよろしく

奨学金制度について考える学習会

中京大学国際教養学部・大内裕和教授

2月9日（木）、キャンパスプラザ京都で「どうなる!? 学費にかかるお金の問題『奨学金問題について考えよう』」をテーマに開催しました。

急速な貧困化と雇用の変化を背景に、大学生の奨学金受給率は50％を超え、社会に出てから長期に渡り返済に苦しむ若者が増えています。その奨学金制度の歴史と現在の問題について学び、こんごの改善方向について考えあうことを目的に開催。

京都労働者福祉協議会と生協（京都生協、大学生協関西北陸ブロック京滋・奈良エリア、京都府生協連）が主催しました。

京都生協・川村幸子副理事長（京都府生協連理事）

京都生協・川村幸子副理事長（京都府生協連理事）が開会あいさつをおこない、中京大学国際教養学部・大内裕和教授が、「若者の格差と貧困―奨学金問題から考える」をテーマに、講演されました。大学生協関西北陸事業連合・中森一朗専務理事が閉会あいさつをおこないました。

大学生協関西北陸事業連合・中森一朗専務理事

112人の参加があり、参加者からは「目からウロコでした。奨学金問題が、結婚・少子化・ブラックバイトなど、日本の社会や経済につながっていることに驚きました」「奨学金＝学生ローン＝若者を食い物にする貧困ビジネスという構図が良く分かりました」などの感想が出されました。

奨学金リーフレット

あわじ環境未来島構想を視察

兵庫県淡路県民局県民交流室未来島推進課・地白雅則課長

2016年11月30日（水）、兵庫県淡路市で持続可能な地域社会モデルとして、住民・NPO・企業・行政が一緒になってすすめている「あわじ環境未来島構想」を視察してきました。京都府生協連環境・エネルギー部会が主催。

兵庫県淡路県民局県民交流室未来島推進課・地白雅則課長が「あわじ環境未来島構想（くらし・食と農・エネルギーの持続）」の取組みについて説明がありました。つづいて、洲本市役所農政課・高橋壱様から「再生可能エネルギーを地域の資源と考える」と題しての報告の後、「菜の花・ひまわりエコプロジェクト」の説明を聞き、バイオディーゼル燃料精製装置の見学をしました。

会場を移動して、（一財）淡路島くにうみ協会・戸敷幸事業課長と同・久井智之事務局事業課主査から説明を聞きながら、住民参加型くにうみ太陽光発電所の見学をしました。

参加者からは「地域に貢献できる再生可能エネルギーでないと意味がないという報告がたいへん印象的でした」などの感想が出されました。

京都市ごみ減量推進会議「設立20周年記念式典・記念講演会」

2016年12月18日（日）、京都タワーホテルで開催されました。

式典では、京都市ごみ減量推進会議・高月紘会長の開会あいさつの後、京都市・門川大作市長から来賓あいさつがありました。

ジャーナリスト・環境カウンセラー・崎田裕子氏、NPO法人プロジェクト保津川代表・原田禎夫氏の記念講演の後、崎田裕子氏、原田禎夫氏と京都大学大学院地球環境学堂准教授・浅利美鈴氏による、鼎談（ていだん）「ごみ減の20年とこれからの発展へのエール」がありました。

京都市ごみ減量推進会議には、京都府生協連から、高取淳専務理事が理事に就任しています。

平成28年度地方消費者フォーラムinひょうご

2月20日（月）、兵庫県農協会館を会場に、近畿地区の消費者団体・行政で構成する実行委員会と消費者庁の主催で開催され、244名が参加しました。

今年度のテーマは「広げよう地域へ！つなげよう世代を超えて！」。第一部はNPO法人消費者ネットじゃぱん・タン・ミッシェル理事長のあいさつに続き、映画「チェンジメーカーズ～消費者の権利のための闘い」を上映。

第二部は消費者庁・吉井巧審議官から開会のあいさつと消費者庁の取組み報告があり、13の団体から活動のリレー紹介がありました。また、関西学院大学生協（くらしのヤングクリエーター）、神戸市市民参画推進局（消費者教育）、高島市社会福祉協議会（住民の暮らしを支えるプロジェクト）から取組み報告があり、交流しました。

消費者庁・吉井巧審議官

「日本生協連2020ビジョン・中期方針福祉分野(事業)報告」

2016年12月2日（金）、地域支援事業推進チームによる公開学習会をコープ御所南ビルで開催しました。

日本生協連福祉事業推進部・山際淳部長から「日生協2020ビジョン・中期方針福祉分野（事業）」をテーマに、福祉事業の基本的理解と社会環境変化、生協の福祉事業の現状と課題、今後の福祉事業戦略について、報告をいただきました。会員生協役職員30人が参加しました。

京都環境フェスティバル2016

2016年12月10日（土）～11日（日）、京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ）で開催されました。

会員生協の京都生協や、生協コープ自然派京都、生協生活クラブ京都エル・コープ、大学生協、全京都勤労者共済生協（全労済）が、それぞれの環境活動の紹介や、クイズに取り組みました。京都府生協連からは、「あわじ環境未来島構想」の視察報告を展示しました。

1100人の府民が当会ブースを訪れました。

環境・エネルギー部会公開学習会

2016年12月6日（火）、「再生可能エネルギー政策と地域づくり」をテーマにコープ御所南ビル4階会議室で開催しました。

認定NPO法人気候ネットワーク・豊田陽介主任研究員を講師に、パリ協定の中身や意義、電力自由化後の動きについて、報告をいただきました。会員生協役職員25人が参加しました。

京都労働者福祉協議会創立60周年記念講演・祝賀会

2月23日（木）、京都ホテルオークラにおいて開催されました。京都労働者福祉協議会（京都労福協）は、行政や労働団体などの関係団体と連携し、勤労者福祉の向上などさまざまな活動を展開しています。京都府生協連からは、高取淳専務理事が理事に就任しています。

与謝野町・山添藤真町長

記念講演では、与謝野町・山添藤真町長より「与謝野町の挑戦」をテーマに、新しい価値を生むまちづくりの取組みについて講演がありました。祝賀会では、京都労福協・橋元信一会長のあいさつの後、京都府・山下晃正副知事、京都市・藤田裕之副市長、中央労福協・栗岡勝也事務局次長より祝辞がありました。

第4回近畿圏　府県生協連・ろうきん合同会議

2016年12月26日（月）、近畿ろうきん肥後橋ビルで開催され、近畿労働金庫から21人、生協から近畿6府県の生協連役職員12人が参加しました。

近畿労働金庫・山下博司理事長が開会あいさつ。同・中川勝文営業推進部次長より、近畿ろうきん事業概況の紹介の後、全国労金協会・営業企画部・赤堀敏洋次長、近畿労金・営業推進部・中川勝文次長、近畿労金・地域共生推進室・浦田和久室長から「生協・ろうきんの相互連携」の全体状況の報告がありました。NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク・渥美公秀理事長（大阪大学大学院人間科学研究科教授）より、「緊急災害に備える協同の力」について講演があり、質疑応答しました。各生協府県連からは、各地の生協概況や、近畿ろうきんとの連携した活動について報告がありました。

NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク・渥美公秀理事長

マスコミ関係者との懇談会

3月22日（水）、京都ガーデンパレスで、京都に本支局を置く新聞・放送編集者との意見交換会を開催しました。

開会にあたり、京都府生協連・上掛利博会長理事があいさつをのべました。京都府生協連各会員生協から「2016年度の特徴的な活動」について報告しました。京都生協・畑忠男理事長が「京都生協のCSRの取組み」について、京都大学生協・中島達弥専務理事が「総長カレー」について、大学生協関西北陸事業連合・中森一朗専務理事が「大学生活くらしの実態調査」「奨学金制度に関するアンケート」について、京都高齢者生協くらしコープ・石澤春彦専務理事が「次世代下宿事業」「共同墓」について報告し、意見交換しました。

京都府生協連・畑忠男副会長理事が御礼と閉会のあいさつをのべ、終了しました。

懇談会にご出席いただいたみなさん　※敬称略・順不同

会　社　名	役職名	氏　　名
NHK京都放送局	局　　長	寺井　友秀
京都新聞社	編　集　局　長	布部　拓男
京都放送	報　道　局　長	刀禰　隆司
共同通信社京都支局	支　　局　長	山本　裕之
時事通信社京都総局	総　　局　長	松崎　勝美
中日新聞社京都支局	大阪支社報道部長	牧　真一郎
フジサンケイビジネスアイ京都支局	京　都　統　括	助田　勝行
読売新聞社京都総局	総　　局　長	橋本　栄二

会員生協 TOP INTERVIEW トップインタビュー VOL.4

京都府立医科大学・府立大学生活協同組合

～東あかね理事長に聞く～

（聞き手：京都府生活協同連合会専務理事・高取 淳）

当会広報誌、２００１年９月号№43の対談「見直そう『たべる　たいせつ』」にご登場いただいた東あかね教授が、京都府立医科大学・府立大学生協の理事長になられました。

生協を通して旺盛に食育活動をされている東理事長を訪ね、お話をうかがいました。末廣恭雄専務理事にも同席していただきました。

高取　今期理事長に就任されましたが、これまでの生協とのかかわりや理事長になられたきっかけについてお聞かせください。

東　地域生協に関しては、幼いころに住んでいたところが買い物に行くのにとても不便な場所だったこともあり、早くから加入していました。京都府立医科大学・府立大学生協（以下：府医大・府大生協）に加入したのは、１９７５年に京都府立医科大学（以下：医科大学）に入学してからです。府医大・府大生協の役員としては、２０１０年から２年間副理事長に就任したのですが、その後２０１２年から２０１４年３月まで京都府立大学（以下：府立大学）副学長になりましたので、一旦、生協役員から退任し、２０１４年４月からまた副理事長を２年間して、今回理事長になりました。

二つの大学に一つの生協

高取　府医大・府大生協についてご紹介ください。

末廣　１９５８年に医大生協が設立され、今年で58年になります。通常、大学生協は学生と教職員が主な組合員ですが、医大生協は病院地区での営業もしているというのが特徴です。医科大学で生まれた生協が府立大学に生協ができるときに支援をして、１９６２年に統一するための総代会を開催し、府医大・府大生協になりました。大学は当初、別法人だったのですが、今は、一法人二大学の形態の独立法人です。生協の方が先にひとつになったという訳です。

東　患者さんの組合員がおられ、入院生活を支えるというところから始まっているのが、他の大学生協と違うところです。

末廣　両方の大学がお互いを尊重しあいながら責任をもって運営してきました。

高取　二つの大学に一つの生協。大変珍しいですが、そのことで強みであったり、逆にご苦労などはあるのでしょうか？

末廣　同じ学生でもかなり違います。医学部系の学生と文系理系の学生が一緒に会議をしているというのはあまりないのですが、２年前から文部科学省の大学間連携事業で、三大学教養教育共同化の取組みが始まり、府立大学のキャンパスに医科大学の学生と京都工芸繊維大学の学生が一緒に学ぶようになったので、お互いの学生が近づけるようになりました。

一回生の時に同じキャンパスに居るので、同じ生協の組合員としていろんな取組みが進めていければ良い、という目標は持っています。

東　三大学の学生が一緒に学び、幅広い教養を皆がつけるということはとても良いことだと思っています。

高取　２０１６年度は店舗の移転や、損益構造改革を課題とされています。

末廣　店舗の移転も含めてこの２年間取り組んでおり、損益構造は大きく変わっています。一番のポイントは今までは組合員サービスを重視して、損益的に厳しいものもやっていたのですが、整理しました。そこで出た利益は組合員のために投資をしようと、利用施設をリニューアルしていく取組みを進めています。

こだわりの商品づくり

高取　地産地消にこだわった商品活動に取り組まれています。地域との連携にもつながる取組みだと思いますが、どのような内容でしょうか？

末廣　京丹後市のお米を生協の食堂で長く使っていて、毎年、農村体験ツアーを実施しています。その活動の中から「大学京あられ」という商品が生まれました。

府立大学生協下鴨ショップ地産地消商品

東　袋に当時の府立大学の学長に書を書いてもらい、雅（が）印（いん）は医科大学の名誉教授に作ってもらい、絵は学生に書いてもらいました。「京あられ」というネーミングも学生が考えた、こだわりの商品です。文学部の学生はこの書を見た

ら、ありがたがって袋が捨てられないらしいです（笑）。

末廣　5年過ぎてもまだ作り続けられています。いい商品は長続きをします。「京たんごぼたん・もみじ比治の里」というカレーは、獣害被害の実態を見て、鹿やイノシシを食肉として何とか利用しようと大学内で議論しながら開発、商品化しました。

東　京丹後市の解体施設で解体された肉を社会福祉法人でレトルト加工しており、京丹後市の鳥獣被害対策と障害者の方がたの就労支援にもなっています。「有害鳥獣をおいしく食べて京都の農業に貢献しよう！」がスローガンで書いてあるのですが「これがあると食べる気がしない」と言われることもあります。森を守り農業を守るため、このスローガンがないと意味がないのですが…。

（左から）末廣恭雄専務理事、東あかね理事長、小脇正下鴨ショップ店長も一緒に

食生活をサポート

高取　学生生活アンケートを実施されたとお聞きしています。今の学生の食生活の特徴というものはありますか？

東　4～5年前から週一回、朝食会をやっていて、昨年まで続けていました。学生は100円、教職員は400円です。食材は宮津のアカモクや鰆、府立大学の農場の野菜を使って、「朝みんなであつまってご飯を食べよう」と呼びかけました。朝食を食べない学生が20％程度いまして、週2回朝食会に参加させて朝食の摂取習慣がつくか、卒論研究でその効果を検証しました。しかし、残念ながら習慣はつきませんでした。ところが予期しない面白い効果があったのです。朝食会で朝ご飯を食べた学生は、昼ご飯を食べるようになったんです（笑）。体にリズムがついたということですね。ただこの企画は、朝食を50食作ることになっていたので、どうしても50食をさばかなければならなかったので、独身の男性を探しては朝食券を買ってもらいました。とても喜ばれましたが大変でした。長岡京のタケノコを食材にしたくて、学生と一緒に掘りに行き、リュックに背負って持って帰ってきたこともありました。

末廣　お金をかけずに食事をしようという人がどうしても多かったのですが、本格的にミールカード（※）が普及してきて、食事をバランスよく取るようになり、小鉢の利用数が増えました。一緒に食べる友だちも影響を受けて、全体的に利用数が増えている状況になっています。席数も増やし、たくさんの組合員にバランスの良い食事をとってもらえるような方策を2年くらい続けています。

高取　これからの府医大・府大生協がめざす姿について教えてください。

東　学生のためになる食堂として頑張っていきたいと思っています。生協の食堂で健康的で安全で経済的でおいしい食事を提供していきたい。食堂で食生活の相談やアドバイスができるような機能を果たしたいと思っており、（公社）日本栄養士会が推進している栄養ケア・ステーション認定制度モデル事業という制度を利用しようと考えています。これは厚生労働省が推進する「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」の目標に掲げている「健康づくりに関して身近で専門的な支援・相談が受けられる民間団体の活動拠点づくり」の一環で、生協の食堂も健康づくりに貢献できればいいなと思っています。

高取　本日はお忙しいなか、ありがとうございました。

※ミールカード　生協食堂年間利用定期券（前払い）

京都府立医科大学
府立大学生活協同組合

代　表　者／理事長：東　あかね
　　専務理事：末廣　恭雄
所　在　地／京都市上京区河原町広小路梶井町465
　　TEL.075-251-5952
事　業　高／7億8,917万円
組合員数／8,407人
設立年月日／1959年12月26日
http://kf.u-coop.net/

京都府生協連　第22回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ　災害時の対応と課題 ～生協くまもとの報告から学び考える～

1月17日（火）、コープ御所南ビル会議室で開催しました。役職員と組合員の25人が参加しました。

京都府生協連・上掛利博会長理事から開会のあいさつがあり、高取淳専務理事がコーディネーターをつとめました。

京都府生協連・高取淳専務理事

ここ数年、自然災害が多発しており、改めて防災や発災時の準備について考えあうことを目的に開催しました。

熊本地震で被災された、熊本県生協連・吉永章会長理事（生協くまもと理事長）から災害時の対応や、そこから見えた、これからの課題について報告をいただきました。

「発災時、生協として最大の被災者支援は事業の継続であるという考えにもとづき、生協くまもとでは、店舗事業も宅配事業も1日も休まず営業を続けました」「発災後すぐに、全国の生協から物資や職員の応援もあり、改めて生協の強みを感じました。全国の生協で取り組まれた募金も10億円を超え、義援金として熊本県に贈呈しました」との報告がありました。これからの課題では、情報流の一本化や、行政との協定の見直し、定期訓練の重要性などを教訓として挙げられ、府県生協連の果たす役割の大きさについて、身をもって体験したと語られました。

熊本県生協連・
吉永章会長理事（生協くまもと理事長）

会員生協報告では、京都市民共済生協・岡田照雄専務理事から、地震災害の基礎知識や、緊急時の対処の仕方等について報告がありました。京都府内での災害の歴史を振り返りながら、ご自身のキャリアにより培われた経験も交え、防災意識の大切さや、普段からできる防災の取組み、防災災害情報の取得方法、地域との連携の重要性などの実践的な報告がありました。

京都市民共済生協・
岡田照雄専務理事

参加者からは、「訓練だけでなく、今日のような体験談を聞くことも力になると感じた」「大変実践的なお話でとても参考になった。各会員生協が発災直後にすみやかに起動し対応できるか？京都府生協連を軸としてヨコのつながりを活かした生協らしい被災者支援活動ができるか？ひきつづき学びあいをすすめたらよいのではないかと思う」「地震が起きた時のそれぞれの生協・行政との連携が大切だということを改めて痛感した」などの感想が出されました。

おもな行事のお知らせ

第23回 京都の生協活動を豊かに発展させる協議会（KSK）
日　時：4月11日（火）午後1時～午後4時（予定）
会　場：コープ御所南ビル4階会議室
テーマ：「安心してくらせる地域社会づくり～貧困・格差の問題を考える。生協として何ができるのか～」

京都府生協連 第64回通常総会
日　時：6月13日（火）午後1時30分～午後5時（予定）
会　場：ハートピア京都3階大会議室（中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地）

ピースパレード（2017年度ピースアクション京都）
日　時：6月21日（水）
会　場：祇園石段下から京都市役所まで

2017年国際協同組合デー 第28回京都集会
日　時：7月5日（水）午後1時～午後3時20分（予定）
会　場：キャンパスプラザ京都
テーマ：未定

CO·OP
発行◎京都府生活協同組合連合会　〒604-0857　京都市中京区烏丸通二条上る蒔絵屋町258番地　コープ御所南ビル4階
TEL.075（251）1551
URL◎http://www.kyotofu-seikyoren.com　E-mail◎kyotofu.seikyoren@ma2.seikyou.ne.jp